＜＜　北品川禁煙通信　＞＞

第 15 号：「ひろまち」運動の意味するものは？

◇　『ひろまち運動』の正体とは・・・

日本たばこ産業（JT）が行っている活動の一つに『ひろえば街が好きになる運動』というのがあるのをご存知でしょうか。テレビの CM でも流れているので知っている方も多いと思います。皆さんはこの広告を見た時にどう思われるでしょう。

・街をきれいにするいい運動だ
・子供の教育にもよさそう
・JT はいいことをしているな

第一印象はこんなところでしょうか？
ところがこの運動には大きな問題が潜んでいます。

それは、この運動がまったく必要のないものであるばかりでなく、未成年に対して悪影響を及ぼすと考えられるからです。JT は、この「ひろまち」運動を、**社会貢献**のひとつとして誇らしげに宣伝していますが、実はそこにはしたたかな戦略があるのです。

そもそも、なぜタバコ会社の主催でみんながゴミを拾わなければならないのでしょう？　この運動は、実は、**タバコ会社が売りまくって、心ない喫煙者が捨てていったタバコの吸い殻をみんなで拾わされている運動**、に過ぎないのです。それを、みんなで街をきれいにしようというスローガンのもと、ボランティア運動にすり替えているわけです。もし、JT が本当にタバコの吸い殻で街を汚していることを申し訳なく思っているのならば、敢えて宣伝などせずに、自社の社員を動員してゴミを拾えばいいのです。

また、この運動を家族全員でやらせるところにタバコ産業の狙いがあります。目的は二つあると考えられます。

第一に、こうした運動を通して JT という会社の名前を覚えてもらい良い企業としてのイメージをつくりたい。そして JT のロゴを多くの人の脳裏に刷り込む。そういった効果を狙っています。

第二に未成年を取り込むことです。こうした運動には、CM にもあるように、おじいちゃんおばあちゃんをはじめ両親と幼い子供が参加することが多いと考えられますし、小中高校生の友達同士での参加もあるでしょう。学校の先生などに付き添われてやって来る生徒もいるでしょう。日本では、昔から清掃活動を教育の一環として捉える歴史がありますから、そういった点も巧みに利用しているのです。では、なぜ未成年を参加させたいのか？答えは明快です。将来の喫煙者を作りたいからです。未成年のうちから JT のロゴを見せつけてタバコと言うものを身近なものとして感じていてほしいのです。また、親子の間のこんな会話も期待しているかもしれません。

子供：『パパ、タバコのゴミが多いね』
喫煙者の親：『そうだね、大人になったらちゃんと吸い殻は灰皿に捨てなきゃいけないよ』
子供：『うん、わかったー』

タバコ産業は、なんとかして未成年に近づきたいと思っています。そして巧みにタバコを売り込みたいのです。なぜなら、現在の大人の喫煙者がやがてタバコが原因で早く死んでしまえばタバコの売り上げは落ちるので、その分は若い人を喫煙者にすることで補うわけです。未成年のうちに喫煙を始めるとニコチン依存症になりやすく禁煙しにくい、という事実をタバコ会社は知っています。ですから、彼らの真のターゲットは未成年なのです。しかし、公に未成年にタバコを勧めることは許されませんからあの手この手を使って未成年に近づきタバコを意識させる事に努めます。この「ひろまち運動」もまさにその作戦の一つです。

世界保健機構（WHO）の国際条約である『タバコ規制枠組条約（FCTC）』では、タバコ会社のこうした社会活動を厳しく禁じています。タバコ会社を子供たちに近づけないためです。

「未成年喫煙防止キャンペーン」もタバコ産業にとっては、『大人になったら思いっきり吸おうね』という運動に他なりません。日本の地方自治体や学校ではこうした FCTC への理解が足りないために、未成年喫煙防止キャンペーンにタバコ産業を参加させ、或いはたばこ産業主催のキャンペーンに喜んで参加していますが、これは大きな間違いです。

世界では、タバコ会社がモータースポーツやテレビ広告から撤退して久しくなりますが、日本ではテレビの CM で平気で喫煙風景を流していますし（JT の CM、分煙編）、自らがバレーボールチームを持ち、ワールドカップを宣伝の道具に使うという破廉恥な行動を続けています。これらは全て FCTC 違反です。近日中に財務省の持つ JT 株が東日本大震災の復興資金のために売り出されることになりましたが、それでも依然として JT の大株主が国であることには変わりなく、「殺人企業」を国が経営することは倫理的にも許されることではありません。

タバコ産業のすることにはすべて意味があります。彼らの行動には明確な目的があるのです。それは、タバコの販売を伸ばすという目的です。そのためには手段を選びません。タバコ会社の主催或いは協賛する催し物には決して参加してはいけません。特に、未成年のお子さんのいらっしゃる家庭では、子供の教育のためにも注意が必要です。

下に３月６日付の愛媛新聞の記事を引用します。

《　未成年者の喫煙を防ごうと、松山たばこ販売協同組合などは5日、愛媛県松山市湊町5丁目の伊予鉄道松山市駅前で啓発用ポケットティッシュを配り協力を求めた。

街頭啓発は2012年から実施。5日は同組合や日本たばこ産業（JT）松山営業所、警察署など12機関から17人が参加し、「たばこはハタチから」の青いたすきを掛けて、通行人にポケットティッシュを手渡した。

*同組合は「教育現場や家庭など社会全体に協力を仰ぎ、販売側の**社会的責任**を果たしたい」としている。　》*

上の運動は一見青少年のためになりそうな印象ですが、これをやるならタバコ組合抜きでやるべきです。日本の社会はまだ、「タバコは二十歳になってから」と言う点にしか関心がなく、タバコに寛容です。「タバコは健康に悪いから手を出さないようにしよう」という考えには至っていません。ですから、このキャンペーンは「ハタチになったらいっぱい吸おう」キャンペーンなのです。　多くの自治体がこのことに気づいていない現状は一種の悲劇であり、こうしたタバコ産業絡みの運動には決して子供たちを近づけてはいけません。